船橋・小室小

パラバド大浜選手が出前授業

車いす駆使した打ち合い

車いすバドミントンで大浜選手（右）と対戦した児童＝船橋市立小室小

来年夏の東京パラリンピックで正式競技になるパラバドミントンの魅力をトップ選手が紹介する出前授業が、船橋市立小室小（吉田浩一校長）で行われた。〝先生〟は、柏市拠点のスポーツNPO法人「スマイルクラブ」に所属する大浜真選手（35）＝柏市出身、車いすバドミントン県強化指定＝で、競技用車いすを駆使する打ち合いを6年生約40人に伝授。競技との出合いや目標に向けて努力する大切さも語った。

体育館に集まった児童たちは、基本操作方法を聞いて競技用車いすに〝乗車〟。大浜選手のタッチをかわす「鬼ごっこ」で、両腕を巧みに使う素早い移動や切り返しに慣れた。

スマイルクラブや地元バドミントン教室のコーチ、ボランティアの大学生らを交えて打ち合い練習も重ね、ネットの手前付近はアウトになるルールや、シャトルをほぼ腕の力だけで素早く返すコツを教わった。

児童代表は試合形式で大浜選手に挑戦。落ちる寸前のシャトルにラケットを届かせたり、後ろ向きで打ち返したりする一流の技に驚きながら、選手顔負けのショットも放って笑顔を見せた。

体験談も語った大浜選手は「大学生のときに交通事故に遭い、お腹から下が動かなくなった。落ち込んで悩む時期もあったが、10年後に車いすバドミントンに出合い、生きがいを見つけた」と振り返り、2024年パリ・パラリンピック出場を目指していると宣言。日常生活では、専用装置で車を運転できる一方、周囲の助けが必要な場合があることも説明した。

出前授業に参加した宮崎紗奈さん（12）は「大浜選手の速さや迫力に驚いた。車いすの方向操作が大変だったけれど、すごく面白い」とにっこり。宮本結愛さん（12）は「初めてで難しかったけれど、優しく教えてもらえた。大浜選手には日本1位、世界1位を取ってほしい」と期待した。